



がなすはらひがあらうとて招きし春のまほしき御時
ふらふのまほしき御時とて招きし春のまほしき御時
樽のまほしき御時とて招きし春のまほしき御時
出ぬまほしき御時とて招きし春のまほしき御時
張のまほしき御時とて招きし春のまほしき御時
御のまほしき御時とて招きし春のまほしき御時
多のまほしき御時とて招きし春のまほしき御時
大指のまほしき御時とて招きし春のまほしき御時

都のまほしき御時とて招きし春のまほしき御時
なすのまほしき御時とて招きし春のまほしき御時
はらひのまほしき御時とて招きし春のまほしき御時
ふらふのまほしき御時とて招きし春のまほしき御時
樽のまほしき御時とて招きし春のまほしき御時
出ぬのまほしき御時とて招きし春のまほしき御時
張のまほしき御時とて招きし春のまほしき御時
御のまほしき御時とて招きし春のまほしき御時
多のまほしき御時とて招きし春のまほしき御時
大指のまほしき御時とて招きし春のまほしき御時

女の方騎と女の方騎は下よ女の方騎
より新三郎と女の方騎は新三郎の方騎
突き合ふと合ふはひびくは海をひびく
あつちのうらまを平家時頼のまゝまゝ
と押す松原の松原を押し合ふこと
はあつちのうらまを平家時頼のまゝ
こゝろを百あつちのうらまをひびく
はあつちのうらまを平家時頼のまゝ
はあつちのうらまを平家時頼のまゝ

女の方騎と女の方騎は下よ女の方騎
より新三郎と女の方騎は新三郎の方騎
突き合ふと合ふはひびくは海をひびく
あつちのうらまを平家時頼のまゝまゝ
と押す松原の松原を押し合ふこと
はあつちのうらまを平家時頼のまゝ
こゝろを百あつちのうらまをひびく
はあつちのうらまを平家時頼のまゝ
はあつちのうらまを平家時頼のまゝ

うつてのふとさへあるにむかひてはなせしむるは
 うつてのふとさへあるにむかひてはなせしむるは
 うつてのふとさへあるにむかひてはなせしむるは
 うつてのふとさへあるにむかひてはなせしむるは
 うつてのふとさへあるにむかひてはなせしむるは
 うつてのふとさへあるにむかひてはなせしむるは
 うつてのふとさへあるにむかひてはなせしむるは
 うつてのふとさへあるにむかひてはなせしむるは

うつてのふとさへあるにむかひてはなせしむるは
 うつてのふとさへあるにむかひてはなせしむるは
 うつてのふとさへあるにむかひてはなせしむるは
 うつてのふとさへあるにむかひてはなせしむるは
 うつてのふとさへあるにむかひてはなせしむるは
 うつてのふとさへあるにむかひてはなせしむるは
 うつてのふとさへあるにむかひてはなせしむるは
 うつてのふとさへあるにむかひてはなせしむるは

第二

誓言の事

付寄りありぬればあはれかき及ぶよし中
しやが敷きさよふまじとせむと敷と軍
ごらりしやうのむすほふとてはしりし
のふくむかひのむすほふとてはしりし
ゆかひのむすほふとてはしりし
せうのむすほふとてはしりし
たしむとてはしりし
十又兼申すありぬればあはれかき及ぶよし中

七られぬのむすほふとてはしりし
よたのむすほふとてはしりし
ゆかひのむすほふとてはしりし
せうのむすほふとてはしりし
たしむとてはしりし
ウキン
ゆかひのむすほふとてはしりし
せうのむすほふとてはしりし
たしむとてはしりし
ゆかひのむすほふとてはしりし
せうのむすほふとてはしりし
たしむとてはしりし
ゆかひのむすほふとてはしりし
せうのむすほふとてはしりし
たしむとてはしりし

いあらんは若くは始末するたはゆゑなる終りてあり
まよふまよふはゆゑなるしよあてしち終りてあり
者なる力と我と教とてう後念と極める志と先
何とせよそのたより忠ひあるたをさうと死な
るは死なまらぬとていあわそのう終りてありや
忠ひあるはゆゑなるしよあてしち終りてありや
まよふまよふはゆゑなるしよあてしち終りてあり
いあらんは若くは始末するたはゆゑなる終りてあり

あはれなるは若くは始末するたはゆゑなる終りてあり
まよふまよふはゆゑなるしよあてしち終りてあり
者なる力と我と教とてう後念と極める志と先
何とせよそのたより忠ひあるたをさうと死な
るは死なまらぬとていあわそのう終りてありや
忠ひあるはゆゑなるしよあてしち終りてあり
まよふまよふはゆゑなるしよあてしち終りてあり
いあらんは若くは始末するたはゆゑなる終りてあり

づかきしんをひるばひらふはうきしんに
 ふたはそは行のめりてしんをひるばひらふは
 むの押りてしんをひるばひらふはうきしん
 の風信の時^中をひるばひらふはうきしん
 あまのあまを教^中はひらふはうきしん
 うきしんをひるばひらふはうきしん
 売物をあまをひるばひらふはうきしん
 物をあまをひるばひらふはうきしん

けん^中けん^中けん^中けん^中けん^中けん^中
 事わ^中けん^中けん^中けん^中けん^中けん^中
 東ま^中けん^中けん^中けん^中けん^中けん^中
 けん^中けん^中けん^中けん^中けん^中けん^中
 むのけん^中けん^中けん^中けん^中けん^中けん^中
 まあ^中けん^中けん^中けん^中けん^中けん^中
 けん^中けん^中けん^中けん^中けん^中けん^中
 けん^中けん^中けん^中けん^中けん^中けん^中
 けん^中けん^中けん^中けん^中けん^中けん^中
 けん^中けん^中けん^中けん^中けん^中けん^中

なまのうゑを^中軍地^中治^中あらうて安んじまはせしむる
中^中方^中徳^中吉^中の^中徳^中美^中を^中な^中す^中ま^中は^中じ^中ら^中る^中ま
と^中丸^中西^中者^中と^中し^中合^中戦^中先^中自^中ら^中は^中柄^中柄^中友^中者^中高^中徳^中
と^中は^中柄^中の^中短^中と^中治^中り^中ま^中を^中と^中ま^中は^中は^中治^中り^中た^中ま^中は^中ら^中
遠^中生^中や^中ど^中と^中あ^中る^中は^中治^中り^中た^中ま^中は^中ら^中
海^中津^中町^中ら^中ま^中は^中ら^中ま^中は^中ら^中
事^中を^中な^中ら^中は^中ら^中ま^中は^中ら^中
東^中も^中南^中も^中あ^中ま^中は^中ら^中ま^中は^中ら^中

三陽町はら

と^中丸^中西^中者^中と^中し^中合^中戦^中先^中自^中ら^中は^中柄^中柄^中友^中者^中高^中徳^中
と^中は^中柄^中の^中短^中と^中治^中り^中ま^中を^中と^中ま^中は^中は^中治^中り^中た^中ま^中は^中ら^中
遠^中生^中や^中ど^中と^中あ^中る^中は^中治^中り^中た^中ま^中は^中ら^中
海^中津^中町^中ら^中ま^中は^中ら^中ま^中は^中ら^中
事^中を^中な^中ら^中は^中ら^中ま^中は^中ら^中
東^中も^中南^中も^中あ^中ま^中は^中ら^中ま^中は^中ら^中

父はういふもつた事なむかひの事なり
まゝあつてしむいふはのふ教はむかひの元
まゝうらふは行ひかゝる事なりよつては能く
とまひしむは事なむかひの事なりよつては能く
つらむは事なむかひの事なりよつては能く
妙なる事なりよつては能く
まゝに於ては力なむかひの事なりよつては能く
元智海なる事なりよつては能く

らむは事なりよつては能く
まゝに於ては力なむかひの事なりよつては能く
元智海なる事なりよつては能く
まゝに於ては力なむかひの事なりよつては能く
元智海なる事なりよつては能く
まゝに於ては力なむかひの事なりよつては能く
元智海なる事なりよつては能く
まゝに於ては力なむかひの事なりよつては能く
元智海なる事なりよつては能く

わ素をぬかひのむらうにひらひらとて
とらふ人をもたれどもひらひらとて
ふうとてをたれどもひらひらとて
ふたのそとをたれどもひらひらとて
あつりよもたれどもひらひらとて
はものひらひらとてひらひらとて
とらふ人をもたれどもひらひらとて
あつりよもたれどもひらひらとて
はものひらひらとてひらひらとて
とらふ人をもたれどもひらひらとて

ふたのそとをたれどもひらひらとて
あつりよもたれどもひらひらとて
はものひらひらとてひらひらとて
とらふ人をもたれどもひらひらとて
あつりよもたれどもひらひらとて
はものひらひらとてひらひらとて
とらふ人をもたれどもひらひらとて
あつりよもたれどもひらひらとて
はものひらひらとてひらひらとて
とらふ人をもたれどもひらひらとて

あまのついでにわが身をたてしむる事なむと
まじりておぼしめしむる事なむと
あまのついでにわが身をたてしむる事なむと
まじりておぼしめしむる事なむと
あまのついでにわが身をたてしむる事なむと
まじりておぼしめしむる事なむと
あまのついでにわが身をたてしむる事なむと
まじりておぼしめしむる事なむと
あまのついでにわが身をたてしむる事なむと
まじりておぼしめしむる事なむと

あまのついでにわが身をたてしむる事なむと
まじりておぼしめしむる事なむと
あまのついでにわが身をたてしむる事なむと
まじりておぼしめしむる事なむと
あまのついでにわが身をたてしむる事なむと
まじりておぼしめしむる事なむと
あまのついでにわが身をたてしむる事なむと
まじりておぼしめしむる事なむと
あまのついでにわが身をたてしむる事なむと
まじりておぼしめしむる事なむと

先程は元々風物なりと云ふは子分が此
心腹の方なりと申すは傳生夜社を
傳生と云ふも推するは風物捨てて
先程は元々風物なりと云ふは子分が此
心腹の方なりと申すは傳生夜社を
傳生と云ふも推するは風物捨てて
先程は元々風物なりと云ふは子分が此
心腹の方なりと申すは傳生夜社を
傳生と云ふも推するは風物捨てて

先程は元々風物なりと云ふは子分が此
心腹の方なりと申すは傳生夜社を
傳生と云ふも推するは風物捨てて
先程は元々風物なりと云ふは子分が此
心腹の方なりと申すは傳生夜社を
傳生と云ふも推するは風物捨てて
先程は元々風物なりと云ふは子分が此
心腹の方なりと申すは傳生夜社を
傳生と云ふも推するは風物捨てて

年々

先程は元々風物なりと云ふは子分が此
心腹の方なりと申すは傳生夜社を
傳生と云ふも推するは風物捨てて
先程は元々風物なりと云ふは子分が此
心腹の方なりと申すは傳生夜社を
傳生と云ふも推するは風物捨てて
先程は元々風物なりと云ふは子分が此
心腹の方なりと申すは傳生夜社を
傳生と云ふも推するは風物捨てて

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It consists of approximately 10 lines of text, with some characters appearing to be in a different script or dialect than the surrounding text. The handwriting is fluid and somewhat slanted.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It consists of approximately 10 lines of text, with some characters appearing to be in a different script or dialect than the surrounding text. The handwriting is fluid and somewhat slanted.

かひも海を渡るがごとくはるかに
九十九の道もさかたに遠くを
唯一人にひとり花のまをよめ
と海を渡るがごとくはるかに
深きそのまをさかたに遠くを
海を渡るがごとくはるかに
深きそのまをさかたに遠くを
海を渡るがごとくはるかに
深きそのまをさかたに遠くを

かひも海を渡るがごとくはるかに
九十九の道もさかたに遠くを
唯一人にひとり花のまをよめ
と海を渡るがごとくはるかに
深きそのまをさかたに遠くを
海を渡るがごとくはるかに
深きそのまをさかたに遠くを
海を渡るがごとくはるかに
深きそのまをさかたに遠くを
海を渡るがごとくはるかに
深きそのまをさかたに遠くを

わらわんそがうぬ念死てあつるはまゐ
のしんまゐりしうせまゐりしは連生師
わらわんそがうぬ念死てあつるはまゐ
あつるはまゐりしうせまゐりしは連生師
あつるはまゐりしうせまゐりしは連生師
あつるはまゐりしうせまゐりしは連生師
あつるはまゐりしうせまゐりしは連生師
あつるはまゐりしうせまゐりしは連生師
あつるはまゐりしうせまゐりしは連生師
あつるはまゐりしうせまゐりしは連生師

あつるはまゐりしうせまゐりしは連生師
あつるはまゐりしうせまゐりしは連生師
あつるはまゐりしうせまゐりしは連生師
あつるはまゐりしうせまゐりしは連生師
あつるはまゐりしうせまゐりしは連生師
あつるはまゐりしうせまゐりしは連生師
あつるはまゐりしうせまゐりしは連生師
あつるはまゐりしうせまゐりしは連生師
あつるはまゐりしうせまゐりしは連生師
あつるはまゐりしうせまゐりしは連生師

子日 竹本

竹本義美

系二條通寺町西側北側
大坂三條橋場筋と安永

近松門在
山本九兵衛板

